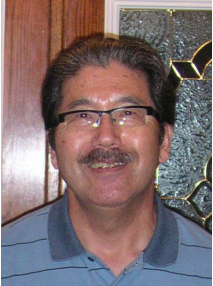


## ごあいさつ 会長 長石 芳尚



会員の皆様、永らくご無沙汰しておりました。月日の経つのは早いもので3月に緊急の2006年度の臨時最終版をお送りして以来ご連絡が滞っておりました。創立30周年を後にして4月の理事会で新人を加えた執行部が選出されました。その後、毎月の理事会では折々に新しい風を感じつつ、トロント新移住者協会は新局面を迎え、今のところまだ漠然としていますが建設的な大きな変化が起きる気配を感じるこの頃です。懸案の「にゅうすねたあ」の発刊については幸いなことに往年トロントの日系社会のユニークな季刊誌であった「オーロラ」の編集を担当していた森貞氏を「にゅうすねたあ」発行責任者に迎えました。これを機に、心機一転、協会の新時代を会員の皆様とともに育てる交流機関紙として再発足したことをここにご報告できることを大変喜んでおります。どうか今後とも、皆様のご指導、ご鞭撻、ご支援を心からお願い申し上げます。編集方針等については追々、紙面でお伝えることとなりますが、役員、理事会がその育成に協力することは誓い合いました。願わくはトロント新移住者協会の「にゅうすねたあ」が会員皆様と協会執行部がその「思い」を交換する場としてお互いに協力しつつ育てることが出来る様に願っております。

## 新移住者協会会員の電子メール登録の推奨 【海外安全対策連絡網の設立について】

三浦信義

先日トロント日本総領事館において、トロントの日系社会の代表が集り、海外安全対策連絡協議会の第1回目の会議が開かれました。トロント新移住者協会も参加しました。

現在の世界では、いくつかの緊急事態の発生が憂慮されています。自然災害や鳥インフルエンザ、テロリストの攻撃などが例としてあげられます。また通常の生活の安全においても情報交換は重要です。

海外安全対策連絡協議会は、通常の安全情報交換に加え、社会的な緊急事態が発生した場合に、総領事館が中心となって効果的に在加日本人・日系人に情報や対処を伝達することを目的にしたものです。

新移住者協会は毎月初めに日系社会ニュースを電子メールで希望者および加盟団体、関係ネットワークに配信しています。これにはその月に行われる移住者社会・日系社会での行事のお知らせ、各種案内、その他の移住者社会・日系社会に関する情報が盛り込まれています。

トロント新移住者協会は、この電子メール配信網が海外安全対策連絡協議会の連絡網の中で重要な役割を果たすと考えます。

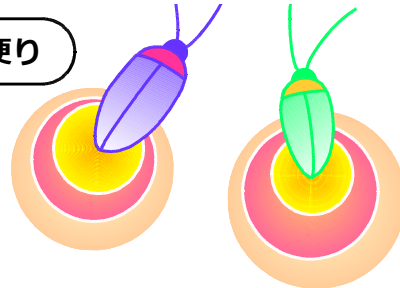
すでに多くの新移住者協会会員は、個人登録または加盟団体などを通して日系社会ニュースの電子メール配信を受け、この連絡網に入っています。この配信網を、まだ配信を受けていない新移住者協会会員に広げたいと考えます。

これは、今まで時々寄せられていた新移住者協会機関紙「にゅうすねたあ」ではいろいろな行事などのお知らせ・情報が前もって分からない、という問題を解決することにも効果があります。

日系社会ニュース電子メール配信希望者は三浦まで名前と配信先電子メールアドレスを送って下さい。なお、この電子メール配信を受けるのに新移住者協会会員である必要はありません。無料です。

三浦：nobbym@idirect.caまたはnobbycosmic@yahoo.co.jp

## きせつ便り



7月5日夜。庭で水遣りしていると何かが目の中を横切った。惹かれる様に後を追うと、林の中に光、ひかり、ヒカリ！思わず座り込み目を凝らした。すると、静かな暗闇の中でホタルの乱舞。幻想的な一夜を毎年ありがとうね！

(マーナ豊澤英子)

7月20日、昼間はセミが鳴いていた。でも夜になると、もう、コウロギが鳴いている。なんか、今年の夏は、比較的、涼しいまま、終わろうとしているのだろうか？いいじゃないか・・・どうせ、気ままなカナダの天候なんだから。新移住者協会の夏は、まだまだ、これからですよ。さあ、皆で、熱くなりましょう。

(森貞一弘)

## 新鮮さ味一番!!



オーシャンフードの練り製品をどうぞ!

- ◎かまぼこ ◎てんぷら ◎さつま揚げ ◎シューマイ
- ◎竹輪 ◎はんぺん ◎その他練り製品

日本食品店でお求めください

**OceanFood** CO. LTD.

Since 1980

3 TURBINA AVE, TORONTO, ONT. M1V 5G3

www.oceanfood.ca TEL.(416) 285-6487 FAX.(416) 285-4012



私は、この夏一ヶ月間、日本の横浜で日本語学校生徒研修を受けました。この研修では、日本の様々な文化を学び、日本語も学び、日本の生活も学びました。JICAの生徒研修では、英語もほとんど通じない、メキシコ人や、ドミニカ人南米の国から来た人ばかりです。

そのような環境で毎日、日本語を話すことは初めてでした。両親と一ヶ月間はなれて暮らすのも初めてでした。

6月13日、日加学園の私と、柿木くんと、日修学園の中村千尋さんとバンクーバー行きの飛行機に乗り旅は始まりました。日本に行く前は、いろんな不安を感じていました。例えば、「私の日本語ちゃんと通じるかしら」とか、「私より日本語が上手かったらどうしよう。。。」とか、そのような事を飛行機の中で考えていました。そして五時間後、やっとバンクーバー空港に着いて日本行きのゲートに着くとそこには、南米の国から来た人たちが待っていました。今回担当してくれた野村先生も一緒に待っていました。そこでお互い、紹介したり話したりしました。

6月14日日本に着き、そこでケベック州から来たボルダックション君に会いました。これでメンバー全員集合！カナダから四人、メキシコから三人、ドミニカ共和国から三人、コロンビアから一人、そしてベネズエラから一人でした。最初の日は、ルームメートのペアが決まってあり、一部屋二人に別れました。私は、メキシコから来た橋本かおりさんとペアになり、その夜からすぐに友達になりました。

最初の週は、英語を話す人とスペイン語を話す人と同じグループでしたが、お互いあまり話したりしませんでした。いつも自由時間を過ごす時は、なぜかカナダからきた人だけ固まって行動していました。でも、数日すると、南米の国から来た人たちとも仲良くなり、最後は、皆ととても仲良くなりました。

研修では、毎日のように勉強があったり学ぶことがたくさんありました。作文教室で作文の書き方を学んだり、日本の歴史講座があったり、プロジェクトワークで見学の質問を作ったり、日本とカナダの違いを紹介したりしました。中学校体験入学をした時も色々分かったことがあります。例えば、学内でうわばきをはいたり、体育館で体育館履きをはいたりする規則があることも分かりました。

勉強の他には、小さな旅行や、工場見学とか色々ありました。最初に見学したのは、JICA横浜センターにある海外移住資料館でした。そこでは、日本人がどのような理由でどの国へ移住したかを見せてくれる小さい博物館でした。防災体験をしたり地震があるとき、どうやってケガや事故を防ぐかも学びました。日本科学未来館にも行きました。そこは、トロントにもある「オンタリオサイエンスセンター」のような科学博物館でした。私達が行った時は、日本科学未来館で東京大学のサイエンスフェアを行っていました。そこでは、実際に体験できる科学実験とかたくさんありました。

旅行にも行きました。箱根の旅館で泊まり、その行きと帰りにいろんな所に見学に行くとても楽しい旅行でした。この旅行では、森永製菓鶴見工場と工房「たかだ」と言う型染屋さんによって行きました。森永では、お菓子工場見学をしたり森永製菓

の歴史を学んだりしました。そこで一番良かったことは、菓子がたくさん入っている福袋がなんと500円で買えたことでした！その後は、工房「たかだ」で型染体験をしました。型染と言うのは、日本のもっとも古い、伝統染めの一つです。そして旅館に着くとそこは、立派な旅館でした。前からドラマなどで見ていてとても興味があった旅館に行けたことがなによりうれしかったです。その旅館は、山の中にあり、とても広い所でした。そこには、カラオケボックスもあり、とてもすてきな温泉もありました。一番印象に残ったのは、そこのごちそうでした。食べきれないほどのごちそうが出てきました。次の日の朝もまたごうかな朝食が出てきて、その時は、とても幸せでした。

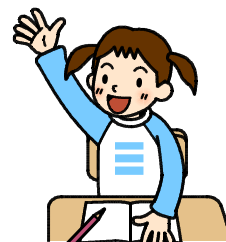
朝早く出発して、箱根神社にお参りに行きました。お守りも買ってきました。その神社は、森の中にあり、アツと思わせるような光景でした。自然がたくさんあって、まるで神様が住んでいるようなきれいな神社でした。その次は、八景島シーパラダイスに行きました。そこは、オンタリオ州にあるマリランドのようでした。たくさんの種類の魚を見たり、イルカやアザラシの芸を見ました。それを見ていたら、イルカと泳ぎたくなりました！

中学校体験入学では、一クラスに二人入りました。日本の中学生たちは、とても親切でいつも勉強を助けてくれました。日本の中学校では、カナダの学校の勉強より二学年くらい先を進んでおり、勉強はとてもむずかしかったです。それでも、日本の中学校でもたくさん友達を作りとても楽しい時間を過ごす事ができました。

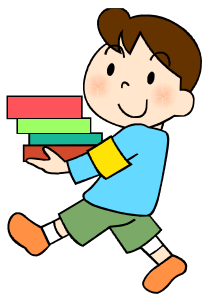
勉強がない時や、休日は、いつも友達と一緒にJICA横浜センターにつながっている、ワールドポーターズと言うデパートで買い物をしたり、プリクラを撮ったりしました。JICAの横浜センターというのは、四階までがオフィスと食堂で、その上は、ホテルのような施設があります。他にもテニスコートや、JICA専用の体育館や、ビリヤードとピアノのある部屋や、ラウンジルームがあって、やる事がたくさんありました。JICAでは、私達研修生徒だけではなく、海外から来た大学生の特別な研修もありました。その人たちとも、とても仲良くなって、スポーツなどを一緒にしました。

ホームステイでは仙台の親戚の家で、一週間お世話になりました。仙台では、たくさんのお古屋に行ったり、回転寿司を食べに行ったり、お好み焼き屋さんに行っておべたりました。親戚のおじさんとおばさんに仙台で有名な松島に連れて行ってもらい、松島のクルーズを楽しんできました。

今思うと、一ヶ月間は長期間だけ一週間のように短く感じました。たくさん新しい人たちと出会えて、思い出を作ってくれて良かったです。この一ヶ月間いろいろ勉強になりました。この研修に行かせてくれた人たちと両親にとっても感謝しています。大学生の研修もあるのでまた、大学生になったらJICAの研修に参加したいと思っています。今回の素晴らしい研修に参加させてもらい、本当にありがとうございます。ちなみに、私達、12人は、今から五年後、また会うことを約束しました。







日本に出発する前の日に僕は落ち着きつけませんでした。みんなと友達になれるかな、知らない人達と一ヶ月間過ごせるかな。色々な事を考えながら次の日を迎えました。でも日本に着いて皆と会ったら、優しく見えたからちょっとホッとしました。

だがやはり最初の日は皆別々に行動しました。

その日の夜皆は二人一部屋に分かれました。僕はメキシコから来た坂本大樹君と一緒に部屋になりました。その夜、時差で眠れなかった僕たちは、話し合っただけで友達になりました。僕たちだけでなく、次の日には皆仲良く話していました。でも僕たちは遊びに研修に行ったわけではありません。毎日色々な勉強をしました。作文教室では、明るくて優しくった和美先生に作文の書き方を教わりました。日本の歴史講座では、和田先生が詳しく面白く指導してくれて、日本の歴史をもっと習いたいと思いました。あと、プロジェクトワークでは、日本の中学校に体験入学する時にその生徒たちに質問したい事をまとめて、資料を整理して発表するプロジェクトをしました。

この研修所には他の研修員もいて、その人たちからも話がかがいました。皆二十代で、大学の交換留学生でもう何年も日本にいてと言っていました。この研修員の話聞いて、自分もまた日本に研修員として、戻れる機会もあると思いました。

研修旅行にも行きました。森永製菓鶴見工場で森永のチョコレートを作る機械をみせてもらいました。残念ながら僕はチョコレートの匂いに弱くて気分が悪くなって僕だけバスに戻りました。ちょっと休んだ後バスで工房「たかだ」という所に行き、型染め体験をしました。型染めは初めてでしたから、すごく楽しい経験になりました。型染めもとてもきれいでまたやりたいと思いました。丸一日色々なことをして疲れました。その夜は、JICA箱根研修所に泊まりました。みんな浴衣を着てカラオケとかビリヤードをして遊びました。次の朝、箱根神社に行き、初めて手水をしました。昼から八景島シークパラダイスに遊びに行き、いろんな魚の種類を見て、海の生き物のショーを見ました。でも一番楽しかったのは中学校の体験入学でした。自分と年齢が近い中学生と話して、今何がはやっているか、今どんなテレビ番組が面白いかな、色々な事を聞いたりして友達になりました。日本の中学校の授業はとても簡単でしたが、日本語を聞き取るのは大変でした。僕はサッカーの部活に参加しました。とても厳しくて午後三時から五時まででしごかれました。でもクラブの皆がとても上手でしたからいい勉強になりました。今でもメールを送ったりしています。根岸中学校で過ごした一週間は一生忘れません。

この研修に参加してディズニーランドに行くのがすごく楽しみだったけど、ホームティから帰って一週間も残っていませんでした。僕たちが一緒にいる時間はあとわずか。この最後の週間はあっという間に過ぎ、帰国する日が来ました。一ヶ月ぶりに家族に会うのが楽しみでしたが、やはり別れるのが悲しかった。バンクーバーに着き、トロントに帰る僕たちとは、別の方向に帰る人たちに飛行機から降りる時にさようならを言って別れました。トロントに着き家に帰って小さくて静かな部屋へ入ったらなんだかすごく悲しくなりました。今思っても泣きそうに悲しいです。でも僕は皆とまた会う約束をしたのでこの夏のことを思い出して、またいつか会える日を願っています。

この研修に参加ができると思った時、本当に信じられず、まるで夢を見ている様な気持ちでした。他の国から参加した人の半分は、過去にこの研修に参加した人達の兄弟でした。

私はこの研修で、二つの事に期待していました。それは、根岸中学校の体験入学と、父のふるさとである長野県でのホームステイでした。

根岸中学校での体験入学は、私にとって初めての体験だったので、どういう行動をとって良いのか分からなかったのですが、疑問に思ったことを聞くと、みんな喜んで教えてくれました。そのおかげで、とても楽しい時を過ごすことができ、あっという間の1週間でした。

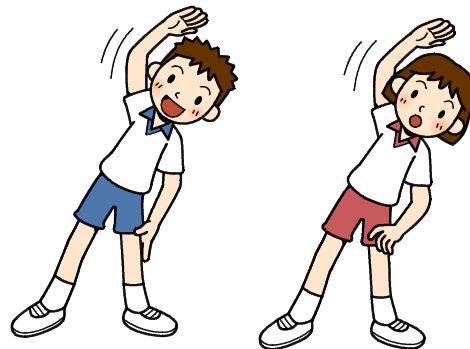
放課後のクラブ活動では、卓球部に入部し、皆に色々教えてもらいました。カナダでも少し父と練習をしていたので、かなり上手いとほめられました。部員の皆が真剣に取り組んでがんばっている練習風景が、今でもはっきりと心に刻まれています。

ホームステイでは、長野県の祖父、祖母、おじ、お婆の家でお世話になり、色々な所に連れて行ってもらいました。特に、皆で行った美ヶ原にある美術館は、普通の美術館と違い、丘の上に石で造られた像や鉄や鋼で造られた像が十種類以上飾られていました。丘の周辺には、建物がいくつかあり、その建物は、すべて小さな美術館や博物館でした。

その中で一番印象に残った建物は、光の美術館です。長さ15センチメートルから30センチメートルの黒い石で積み立てられた建物です。丸くて今にもすべり落ちそうな石が効率良くバランスをとっているのが、すごいと思いました。入り口の近くでは、きれいで澄んだ音楽を流していましたが、建物の奥に入ると、音が光に合わせてさまざまな変化をとげました。たとえば、火の玉やこわい光の部屋では、床がギンギン鳴りました。また、電気やエネルギーを節約するために、人が入ってきた時にだけクーラーや展示している物に光がつくのが、強く印象に残りました。

長野では、3人のお婆の家を訪ねました。幼い子供のいる家庭では、お婆がとても忙しそうにしていたので、子供の宿題の手伝いや家事の手伝いをし、とても喜ばれました。そして私も色々な料理の勉強をすることができ、例えば日本風のカレーやお料理の味付けなど、とても有意義な時間を過ごすことができました。

今回、こういう機会を作って下さったJICAとNJCAの皆さんにとっても感謝しています。これからも日本語の勉強をがんばって続けていこうと思います。そしてまた機会があったら、ぜひ日本へ行きたいと思っています。ありがとうございました。





## 僕と日本

日修学院 中学2年 関 宏和

2005年、6月14日、朝6時に起きて、父とトロント飛行場へ向かいました。今回の研修にはトロントから日加学園の平野君が一緒だったので、とても心強かった。平野光城くんとは小さい時からの友達です。9時位に飛行機に乗り、バンクーバーに向かいました。初めての飛行機なので少し怖かった。

飛行機の中で、最初に思ったのは「他の研修生達はどんな人たちだろう」と思いすごくきんちょうしていました。バンクーバーに着いてAIR CANADAから、今度はJALへ乗りかえました。その時に先生と他の研修生9人とやっと会い、すごくうれしかったです。

日本に着いてからは、色々とびっくりした事、困った事、面白かった事、そしてうれしかった事がたくさんありました。

最初にびっくりした事は、人がものすごく多かったので、前が見えないほどでした。次にバスに乗ってJICAへ行くとき、カナダの道路とは反対側に走った事。そして根岸中学校へ課外授業に行った時に、教室の中で皆うるさくても、先生が、「はいはい、皆静かにして」と言うので教室がシーンと静かになってしまい、すごくびっくりしました。カナダの学校ではとても考えられないことです。

日本に行って、困った事は、どこに行っても、人が多くて、歩くのが大変で、ぶつかりそうになり、真っ直ぐ歩けません。また街の中には、漢字が多くあったので読めなくて、少し困りました。他に困った事は、時差呆けでした。カナダと日本の時間が13時間も違うので、お昼位に寝ちゃう時もありました。そして、根岸中学校に行った時、クラスメイトの皆はどういう人たちなのか、胸がすごくドキドキしてました。学校の帰りには、先生がいなかったで、どっちの電車に乗ればいいのか分からなかったで、結構ごまいました。

面白かった事も、結構いっぱいありました。ホームステイに行く時、車に乗る時点で、間違えて、運転席の方へ行ってしまいました。楽しかった事はたくさんありますが、ホームステイではラビーと言う犬と、遊ぶのが楽しかったです。それから、いとこの由美姉さん、真美姉さん、そしておじいちゃん、お父さんの兄と一緒にカラオケとか、東京タワー、富士山にいたりして、ものすごく楽しかったです。特に富士山はとてもきれいでした。山の上には白い雪がかぶり写真みたいでした。そして他の研修生達と、プリクラ、カラオケ、また遊園地に行った時も、楽しかったです。

続いて、うれしかった事と言えば、他の研修生、そして根岸中学校の生徒と友達になれて、とてもうれしかった。そして親戚にも会えて、一度も行ったことなかった回転寿司にも行って、おいしいお寿司を食べられたことです。

研修では朝は早く起きて、夜は遅く寝て、毎日忙しい日々でした。最初の3日間はJICA横浜センターで過ごして、次の一週間、皆は色々な所へホームステイに行きました。僕は東京の、町田の実家に、8日間お世話になりました。その楽しかった一週間が終わって、皆はJICA横浜センターに集まって来ました。その週に、研修生の皆は、根岸中学校の課外授業に入り、僕は中1のクラスに入り、一緒に勉強しました。皆からは「セッキー」のあだ名をもらいバスケットなどもしました。この一週間の課外授業はものすごく良い思い出が作れました。

3週目は、バスに乗って、色々な所に行きました。例えば、森永のチョコレート工場に行き、中ではチョコレートの甘い香りがし、そしてとても清潔でした。箱根では何度も温泉に入りとても気持ち良かったです。始め、他の友達にパンツをはきながら温泉に入ろうとして、皆で大笑いです。そしてカラオケを歌ったりとても仲良くなりました。東京デズニールランドは、ワンダーランドに比べたらものすごく大きくそして広がりました。アトラクションではスプラッシュマウンテンが一番楽しかった。この頃には皆とも気心が知れて、昔からの友達みたいになり、一緒に写真を撮ったり本当に楽しい一日でした。

帰国の日には、「後もう一ヶ月ぐらい日本にいたい」と思った。多分皆も同じ気持ちだったと思う。根岸中学の友達、そして一緒に行った友達とも、また再会したいと思います。今回の研修で得た多くの思い出や、体験を大切に更により日本語を勉強します。

最後に、今回の研修でお世話になった皆様、そしてJICAの皆様には、本当に感謝しています。本当にありがとうございました。

## 『ノビーのひとりごと』

三浦信義



一年おきに総合健康診断をしている。州の保険が毎年一回はカバーしてくれるはずだが、血液採集の針が怖い。心電図を取る時のクリップが冷たくてすぐぐたい。便のサンプルを取るのも面倒だ。まあ二年に一回なら何とか体を引きずって行ける。

長い付き合いのファミリードクターには僕はお気に入りの患者だ。各所診断しては「パーフェクト!」「パーフェクト!」と連発して、また二年間さようなら、だ。各種検査の結果は通常電話で看護婦が「問題なし」と連絡してくる。

今年は出て来いと言う。

行ったら「こいつは驚いた」と言う。「コレステロール値が高いぞ」。一体どのコレステロールだい。こんなにやせて、コレステロールすら大事な栄養源であるこの僕に何を言うか。

四年前から上昇の兆しが見え、今回上限値を越えた、と言う。高いフランス料理の食べ過ぎ、フォアグラをむさぼった報いがついに来たか。





薬は出さない、自分で食べ物に気をつける、と言う。指針を下さい、と言ったら、そんなものあるか、自分で調べなさい・・・。

食べ物を制限するくらいなら早死にした方がまし、と言っていた僕が、悲しいかな、いざとなるとインターネットをコレステロール機に乗って大飛行。

英語のページを見ても書いてある食べ物の種類がずれる。やはり日本のページでないと食べ物の種類がピンと来ない。

カナダの食品にはすべてその内容物の量が記載されている。単位はスプーン一杯分とか、コップ一杯分とかの数量で、わかりやすい。日本食品もカナダの流通会社はその表を作って貼り付けている。

今までこれを気にしたことがなかった。コレステロールを言われてから見るようになった。意外にコレステロールが入っていなかったり、思いがけないものに大量に入っていたり、で新しい経験だ。ミルクコップ1杯20mg、チーズ30gにつき28mg、ふむふむ。ピーナツバター0mg。へー、って具合だ。で、卵の容器を見た時、目が飛び出たね。1つ190mg! ひゃー! これをほぼ毎日1つ食べていたんだから・・・。

で、なーんだ、卵を止めればいいじゃん、一件落着。と思ったが、表を見るくせがつくと、数字が気になる。数字の高いものは何となく敬遠してしまう。まあ、6月末の再検査の前まで卵を控えれば下がっているだろう、と楽観視だ。

ところで表をみると凄いことにも気が付く。塩分は1日必要量の何%と表示されている(なかなか考えてあるね)。

ある日インスタントカップうどんを食べた時だ。何気なく表を見てびっくり。あれ1杯でその日の塩分必要量の98%が入っている。恐ろしい・・・。

30周年記念誌へご寄付を下さった方々  
厚くお礼申し上げます。

カナダ三井物産	\$5000.00
佐々木成喜	\$1000.00
秋田健司・美代子ご夫妻	\$100.00
岡栄三	\$50.00
遠藤勲 & モニカ成子	\$50.00
内藤豊徳	\$50.00
西村登美	\$50.00
石川省三	\$30.00
刑部由実子	\$20.00
ホーン喜美子	\$10.00
匿名	\$1000.00
匿名	\$200.00
匿名	\$50.00



**NJCA理事会名簿**

- 会長：長石芳尚
- 副会長：川村敦子、山本勝義
- 書記：中山あつ子
- 会計：上中富美子
- 会計補佐：中島美恵子
- 相談役：三枝与一、吉田武彦、小野恵子
- 理事：赤岡満、堀淳子、掛川彰信、滝沢ゆうか、勝山了、プライス睦子、マーナ豊澤英子、遠藤けいと、カーン伸江、川邊平八郎、川邊正子、森貞一弘、布施豊正
- オブザーバー：佐々木成喜
- 加盟団体代表理事：  
(Association for Japanese Culture)太宰光子、太田治代  
(国語教室)寺田昌弘、ディングマン雅美  
(日加学園)鷺見英樹、下田肇  
(日修学院)中西逸人、澤原こずえ  
(ゴルフ)浜場明仁  
(インターネットクラブ)高部克彦、三浦信義  
(池端ナーサリー)池端友佳里、鶴崎圭子  
(浮舟の会)上中富美子  
(歌声喫茶の会)中尾良子  
(ファミリー・トークス・フォーラム)原あんず、武田真里、ジョンソンあんぬ



**ゆりかごから子ども部屋時代(0-5歳-乳幼児期-)の継承日本語育て (連載1/3)**

高度なバイリンガル話者を育てるために

鈴木美知子

**はじめに**

まず、以下の5項目を予備知識としてしっかり心にとめておきましょう。

1. 継承語とは…

継承語とは、親がご先祖様から受け継いだ大事な文化遺産(母語)であり、心で伝えることばです。が、このことばは同時に育てなければ育たないことばであり、放置すれば3代で現地語に同化し、消えることばであるといわれています。

継承語教育とは国語教育と外国語教育のはざまにあり、移住や海外赴任に伴って必要となることばの教育であり、親のことばと学校や社会一般で使われることば(現地語)が異なる環境で言語形成期を送らねばならない子供達に必要な教育である。(『継承語としての日本語教育-カナダの経験を踏まえて-』中島和子)

## 2. バイリンガルの4つの型

- (1) 両方のことばがともに年齢相応のレベルに達しているもの( 両言語高度発達型 )
- (2) 第一言語 (母語) のみ年齢相応のレベルに達しているもの
- (3) 母語より現地語の方がすぐれ、第二言語 (現地語) のみ年齢相応のレベルに達しているもの
- (4) 両方のことばがともに年齢相応のレベルに達して「低迷しているもの」( 両言語低迷型 )

海外子女教育振興財団『言葉と教育』中島和子

上記のようにバイリンガルは4つに分けられます。そして、(1)の「両言語高度発達型」は理想的バイリンガルであり、バイリンガル育ての到達目標でもあります。と同時に(4)「両言語低迷型」には絶対にならないよう、細心の注意を払う必要があります。

## 3. ことばとは…

人の感情・意思・考えを伝え合うための音声。又、それを文字に表したもの。(『国語辞典』集英社)

人は言葉を使って考え、言葉を使ってお互いの意思を伝達し合っています。

## 4. 子どものことばの発達過程

話しことば：ことばは聞くことに始まり、それをたくさん真似て、やがて話せるようになります。

書きことば：読み聞かされながら文字を認識し、自分で読めるようになり、書くことに移行していきます。

## 5. 両親の姿勢の大切さ

「子どもの人格形成に最も強力な刺激を与えるのは、直接的、具体的なしつけではなく、親の示す手本と、親が当たり前として持っている価値観であり、子どもは、親の中にモデルを求め、家の中に「らしさ」を求めている。」といわれています。常に、子どもにとって「あこがれの大人」であるように努力しましょう。

## I 家庭での乳幼児期の継承日本語育て

この時期の家庭での継承日本語育ては、教え込むのではなく、子ども(学習者)が自ら求めて見習うチャンス、経験するチャンスをつねに配慮してやるのがたいせつです。

親の母語である日本語を子どもに心を込めて伝えながら理解力や表現力を育てるということは、同時にそのことばを根に現地のことばを育てることをも意味します。

乳幼児期は木にたとえるならば、蒔かれた種子が土を割って芽を出し、双葉が開き、本葉が芽をのぞかせて勢いよく伸び始め、小さいながら木の姿を見せ始めるまでの期間です。この時期に踏まれたり、虫に食われたり、水や太陽が不足したりすると、その後、いくら条件を改善してみても植物はうまく育ちません。

子どもの成長過程でも、この時期はことばの発達の土台、人格形成の基本(土台)がつくられるそれは大切な時であり、子どもの人生を左右しかねない時期です。

## 1. ことばの根っこ育て

親、特に絶対接触量の大きい母親(保護者)のことばは、子どものことばの根っこ(母語)であり、ヘレンケラーが、手に受ける井戸水の冷たさと共に得たWATERということばをきっかけにことばを習得していったように、まず、母語をしっかり発達させることは、二番目のことばの習得を成功させるための鍵です。

現地の生活言語である英語には望むと望まないに関わらず、さらされ続けているので、「両言語高度発達型のバイリンガル話者」を育てるためには、意識して母語をしっかり育てなければなりません。

### 母語を育てるための親の心得10項目

- ① 子育てはことば育てから。ことば育ては知恵育てであり、親子の共育である
- ② ことばは、ことばに触れさせ、ことばを使わせなければ発達しない
- ③ ことばの使い分けの徹底(ことばを混ぜて使わない、使わせない)
- ④ 子育ては片手間仕事ではなく、親の全存在をかけて取り組む仕事である
- ⑤ 体験させることを大切に
- ⑥ そつ啄の機(適時)を逃さない
- ⑦ 最大限にほめ、最小限に叱る
- ⑧ 子どもの心を大切にし、ことば遣いに気をつける
- ⑨ 子どもは唯一無二の存在であることを忘れない
- ⑩ 目を離さずに手を放し、子どものことばに耳を貸し、心を傾ける努力を怠らない

## 2. ことば育ての始まり

「根っこになることば」育ては、母親のおなかの中からはじまります。

赤ちゃんは、すでに母親のおなかの中で、たくさんの音やことばを母親の感情ぐるみで聞いているのであり、母親の感情の変化は心臓の鼓動や息遣い、からだの動きなどすべてを通して赤ちゃんに伝わっているので、胎教はおろそかにできません。

### 3. 乳児期（誕生～1歳）

母親は人生の最初の教師であり、母親の胸は、人として生きる術を学ぶ最初の教室です。この1年間は生涯で最も成長の著しい時であり、せつせとことばをそそぎ込む時、継承語の木の種子が芽を出すための水遣りの期間であり、水遣りが足りないと発芽（発話）が遅くなります。

#### 生活習慣形成とことばかけのチャンス

##### 授乳／離乳食：

授乳はゆったりとした姿勢で穏やかな気持ちで赤ちゃんを抱き、赤ちゃんが見つめる視線をしっかりと受け止め、語りかけながら時間を赤ちゃんと共有しましょう。

離乳食が始まったら、時間を決め、所定のテーブルにつかせ、「いただきます」、「ごちそうさま」ということばかけを忘れずに、食べさせようと焦ったり、食べさせようとだらだらと時間をかけるのではなく、はじめをつけるよう心がけましょう。

##### 遊び：

目覚めている時間がだんだん長くなってきたら、話しかけたり、カセットテープやCDで童謡を聞かせたり、お母さんも一緒に歌ったりしながら、赤ちゃんと目を合わせ、コミュニケーションを絶やさないう心がけましょう。

玩具は、握るもの、ふって音を出すものなどにはじまり、座れるようになったら積み木、たいこ、その他、家庭にある台所用品などが良い遊び道具となります。叩いたり、こすり合わせたり、重ねたり、はめ込んだりという遊びをしながら、指の運動、両手の共応、力のコントロールなどをおぼえてゆきます。また、極力一緒に遊んであげながらことばかけに励むことで、擬態語や擬音語の使い方などにたくさん触れさせることができます。

##### 運動：

着替えやおムツかえの時の皮膚摩擦や手足の運動など、「気持ちいいね」とか、1, 2, 3, 4と声をかけながら生後すぐから働きかけます。

生後4ヵ月あたりから寝返りを始め、やがて這い出し、いつの間にか物につかまって立ち、伝い歩きが始まるので、子どもの目線で物を見ながら語りかけましょう。

##### 絵本：

音や色彩に反応し、目覚めている時間が長くなり始め、お座りが上手になる生後4～5ヵ月頃からは絵本読み聞かせ開始のときですが、個人差が大きいので、絶対に無理強いはいしないこと。

この時期は、同じものを繰り返し読み聞かせ、語りかけ、じっくりと楽しませましょう。内容としては、身の回りの物や 日常生活に密着しているもの、動物達などを題材とした色彩の美しいもの、絵が具体的ですっきりしているものなどが好ましいです。

### 4. 1歳時代

試行錯誤をしながら、回りの人達に自分の意思を伝える手段を獲得していく時期です。

1歳半ばを過ぎる頃から、今まで貯えて来たことばがことば（単語）として使われ始め、個人差は大きいですが、おおかたの子どもは2歳前後から話し始めます。同時に自我の発達が始まり、自己主張が強くなったりもするので、対応する親の姿勢をはっきりさせ、事の善し悪しを理解させる第一歩、しつけを本格的に始める大切な時期に差し掛かります。親の心得の⑤、⑥、⑦を肝に銘じて取り組みましょう。

#### ア) 心得⑤ 体験させることを大切に

「聞いた事は忘れる。見たことは覚えている。やったことは理解する。」という諺がありますが、ことばも使ってみてはじめて意味を理解できるのです。

#### イ) 心得⑥ そつ啄の機（適時）を逃さない

子どもの教育が成功するとき（適時）は、受ける側の要求と与える側の要求が一致したそのときです。

#### ウ) 心得⑦ 最大限にほめ、最小限に叱る

どんな小さな事でも、共に喜んでやり、おおいにほめ、いけないことはその場できちんと叱り、叱られた理由を納得させましょう。

#### 生活習慣形成とことばかけのチャンス

##### 食事：

ア) 三度の食事やおやつは、出来るだけ決まった時間に、決まった席に座らせて摂らせる

この習慣付けは、やがて、机に向かって勉強をするというしつけにつながります。

イ) 手洗い、食前、食後の挨拶の習慣付け

ウ) 食事の時は、できるだけ小言をさけ楽しい雰囲気、食材の名前や色、大きさ、形、感触、味などいろいろと会話を広げ、子どもが気持ち良く食事ができるよう心を配る。

エ) 2歳近くなり、物をしっかりと掴めるようになったらスプーンやフォークの正しい持ち方を指導し、次いで、箸の使用訓練を始めるこの訓練は、後に鉛筆やクレヨンを正しく持てるよう慎重にすすめましょう。個人差大なので、決して押しつけないことが肝腎です。

##### 遊び：

本のページめくり、はめこみ遊具、ピンに物を出し入れすることなど、指の供給能力を育てる遊びや、引いたり、押ししたり、叩いたり、全身を使った遊びを遊ぶ。親も一緒になって遊び、たくさん語りかけるましょう。

##### 運動：

1歳8ヵ月あたりまでにはほとんどの子どもが歩き始め、体力も付いてきますので、歩き始めたら、時間のやりくりが大変でも、できるだけ毎日手を引いて散歩をさせ、自然の中で色々な物に触れさせながら親も家事を離れ、開放感を楽しみながらたくさん話しかけ、思

い切り動き回らせ、身体にあふれるエネルギーをうまく発散させてやりましょう。

読み聞かせ：

毎日、昼寝の前や就寝時に短い時間でも良いですから絵本の読み聞かせの時間を持つよう努力しましょう。できるだけ毎日欠かさずに続けることが肝腎です。

本人の好きな絵本は何度でも求めに応じ、その都度、親も新鮮な気持ちになって心を込め、ていねいに読んであげましょう。

トロント移住者協会創立30周年記念

**夏の親睦BBQパーティ 2007年8月26日(日)**  
11時半～3時 (食事12時～2時)

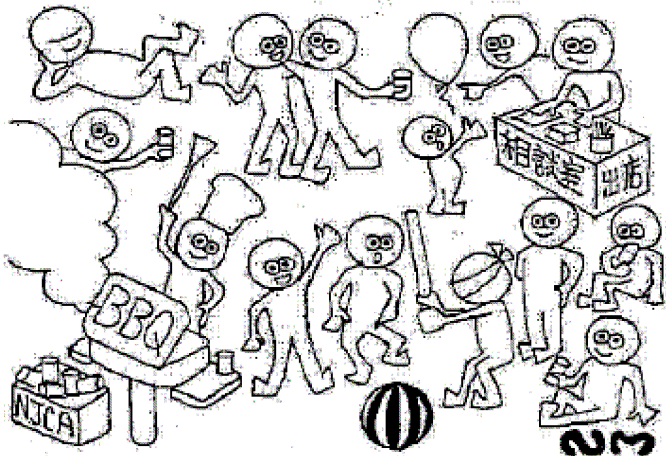
日本行き航空券、デジカメ、液晶テレビなど当たる宝くじ販売/抽選  
【場所】日系文化会館 6 Gramond Court, Toronto (416)441-2345  
地下鉄 Eglinton駅がBroadview駅から100番バスでドンバレー高速道路を越す橋の西側を北に入ったところ

【参加費】大人1名\$6、家族(大人2人に12歳以下の子供3名まで\$12  
シニア及び子供(12歳以下)1名 \$4

【売店・ブース】寿司、まんじゅう、かき氷、ところてん、日本玩具、本屋、日本語学校、クラブ紹介、散髪、指圧など。。。★売店販売の品物は別売り

協賛・協力団体

トロント移住者協会、JCCC, 国語教室、日加学園、日修学園、AJC、NJCゴルフ、インターネット情報交換会、池端ナーサリー、浮舟の会、トロント歌声喫茶の会、かえで文庫、トロント・ファミリー・トークス・フォーラム、旧ハーモニーインターナショナル、旧マミーズ、トロント芸能愛好会(TGA)



トロント移住者協会は創立30周年を記念して、トロント及びトロント近郊に在住の日系人とその家族大歓迎のBBQパーティを日系文化会館にて行います。焼き肉、ソーセージ、漬け物、サラダ、果物、デザート等々盛りだくさんの食べ物の他にゲーム、賞品、ドアプライズ、売店ブースなどが沢山ならびます。美しい夏の最後の日曜日をみんなで楽しみましょう。会員、非会員、誰でも大歓迎!

また今年も、特別日本行き航空券2枚、デジカメ、液晶テレビなど盛りだくさんの景品が当たる宝くじを販売、抽選という「おまけ」がついています。」

- ★ 売店・ブース申し込み受付中  
【問い合わせ・ブース申し込み】 長石 (416)644-1240  
【一般問い合わせ】 三浦 nobbym@idirect.ca (日英)
- ★ ドア・プライズの商品の寄付をお願いします。当日、持って来てください。
- ★ 多勢のボランティアを募集します。一緒に楽しくやりましょう。